



中標津町 講演会及び意見交換会結果資料



資料目次

1.	講演会及び意見交換会開催概要	1
1-1	開催目的	1
1-2	開催日程・場所・内容	1
2.	講演会及び意見交換会結果－全体概要	2
2-1	講演会の取りまとめ	2
2-2	意見交換会の取りまとめ	3
3.	意見交換会結果	4
3-1	郡部＋川西地区グループ	4
3-2	市街地グループ	5
3-3	各グループの取りまとめ	6



1. 講演会及び意見交換会開催概要

1-1 開催目的

- ・ 町民が自主的に公共交通を利用する土壌形成に向け、町民等の公共交通利用に関する意識醸成を行うとともに、町内公共交通に関するニーズ把握のための意見交換会を開催

1-2 開催日程・場所・内容等

■開催日程

- ・ 2022年9月27日（火）

■開催場所

- ・ 文化会館

■開催内容

- ・ 18：30～19：00 講演「地域の皆さんと創る公共交通とは～意見交換会を始めるにあたって～」
NPO法人まちづくり支援センター 代表理事 為国 孝敏 氏
- ・ 19：00～20：00 意見交換会
 - ・ 現状の移動手段及び生活圏を教えてください
 - ・ 普段の移動で困っていることを教えてください
 - ・ 町内のバス路線について改善してほしいことを教えてください

■参加者数

- ・ 22名（うち意見交換会参加者11名）



2. 講演会及び意見交換会結果 - 全体概要

2-1

講演会の取りまとめ



▼講演会の反響

- ・コンサルタント（為国先生、斉藤さん）の方のお話はとても良くて、皆に聞いてほしいなという内容だった。ハッキリ言ってくれた。
- ・郡部のバスをタクシーにして、乗るときだけ呼べばいいのだが、タクシー運転手の確保ができないようだ。
- ・スクールバスも負担が高額で先が心配だ。決まりがあり、通り道の子供だけ乗車できない部分がある。
- ・また、中標津町には観光バスというものがなく、開陽台へは簡単に行けない。バス会社1社ならスムーズなのかと思うが3社あるのでうまくいかないようだ。



2. 講演会及び意見交換会結果 - 全体概要

2-2 意見交換会の取りまとめ

▼現状の移動手段及び生活圏

- ・ 買い物や通院ともに、基本的には町内
- ・ 移動手段は基本的に自家用車
- ・ 月に数回は釧路市までの通院を実施

▼普段の移動で困っていること（市街地循環線）

- ・ 市街地循環線及び町営バスは通院などの目的と時間が合っておらず、利用が不便
- ・ 1乗車の所要時間が長い

▼普段の移動で困っていること（町営バス）

- ・ バス停が遠く、足の悪い方は利用できない
- ・ 目的と時刻が合っていない
- ・ 観光客もバスが使えず困っている

▼改善してほしいこと（市街地循環線）

- ・ ターゲットを明確化した運行
- ・ ルートを短絡化し、所要時間を短く

▼改善してほしいこと（町営バス）

- ・ デマンド交通への転換
- ・ 曜日運行など利用目的に合わせた運行
- ・ 観光客も利用できる交通への再編



3. 意見交換会結果

3-1 郡部＋川西地区グループ

▼現状の移動手段及び生活圏

買い物

- ・ 自家用車を使っている
- ・ 通販や配達サービスがあるため不便しない

通院

- ・ 困ったときは救急車を使う
- ・ 自家用車で釧路市へ月に2回通院
- ・ 体の悪い親族は介護タクシーを利用

その他の移動

- ・ 仕事・趣味での移動は自家用車
- ・ 免許返納した母親を自家用車で連れていくことが多い

▼普段の移動で困っていること

- ・ 市内循環線はルートから少し外れている目的地に寄り道しづらい
- ・ バスは自家用車と比べると言われたが、そうはいつでも融通の利くものになってほしい
- ・ 通院したらどうしようという不安はある
- ・ バス停が遠く足が悪い方だとたどり着かない
- ・ 数十年ダイヤが変わらない
- ・ 時刻が合わない
- ・ 施設や他路線との接続が良くない
- ・ 土日祝日休みなのは困る

▼市内循環線・町営バス等のことで改善してほしいこと

- ・ 郡部に関してはデマンド運行が最適なのでは
- ・ 事前予約制にするのはどうか
- ・ 岩谷学園（日本語学校）や新規就農者に対してのケア
- ・ 曜日運行にすれば運行に合わせて利用する
- ・ 俣落線（群馬）に接続してほしい
- ・ 開陽台、養老牛温泉などの観光地を盛り上げる
- ・ どのような運行形態にしても、実証実験をやらないといけない



3. 意見交換会結果

3-2 市街地グループ

▼現状の移動手段及び生活圏

買い物

- ・ フクハラやAコープなど、町内での買い物が主

通院

- ・ 町立中標津病院への通院が主

移動手段

- ・ 車での移動が中心
- ・ 飲み会などのイベント時にはバスを利用して移動

中標津高校の生徒の行動

- ・ 高校生の6～7割は自家用車による送迎
- ・ バスターミナルまでは路線バスで移動し、徒歩で通学している生徒もいる

▼普段の移動で困っていること

- ・ 高齢者の方の送迎問題が家族間で発生している
- ・ 市街地循環線では通院の時間に合わないことに加え、役場へのアクセスがしづらい
- ・ 市街地循環線は一回りが大きく、乗車時間が長い
- ・ 市街地循環線や町営バスを利用して通学を行う場合、部活動の帰りに自宅まで帰宅することが出来ない
- ・ 観光客がバスを使えず困っている（養老牛などの郊外の観光地までアクセスすることが出来ない）
- ・ 児童・生徒の送迎を自家用車でっており、子どもの体力が低下している

▼市内循環線・町営バス等のことで改善してほしいこと

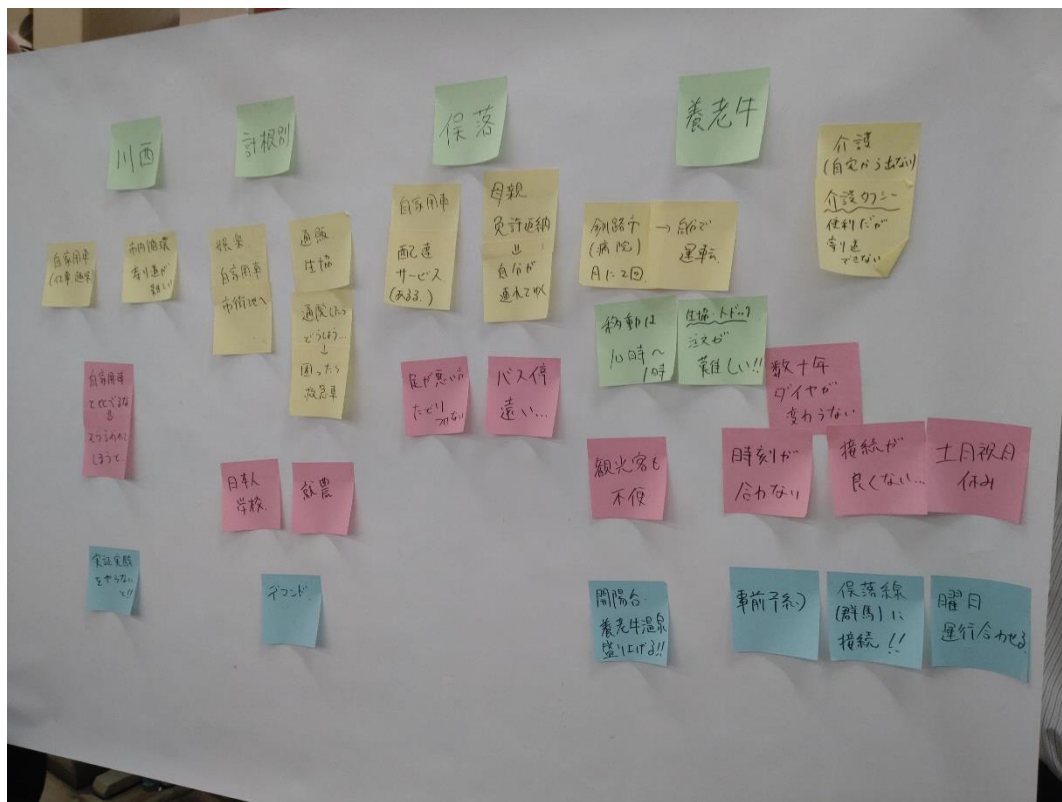
- ・ ターゲットを明確にした検討が必要（交通弱者＋α）
- ・ 市街地循環線のルートを短くし、所要時間を短くする（以前の2ルートに戻すことも検討してはどうか）
- ・ 車両を需要に合わせたサイズにして、効率化を図ることも重要
- ・ 公共交通利用者を増加させる施策として、路線バスとの共通定期券の販売なども検討してはどうか
- ・ 利用者が公共交通を主体的に利用するための意識醸成も必要
- ・ 自転車利用の観光客への対応など、より観光客も取り込める交通に再編



3. 意見交換会結果

3-3 各グループの取りまとめ

▼郡部＋川西地区グループ



▼市街地グループ

